

## 肺がん切除後の気管支瘻孔膿胸に対する遊離組織移植による再建症例の検討

研究対象: 1996年1月から2014年12月までに、国立がん研究センター（以下、当センター）中央病院および東病院で組織移植を用いて気管支瘻孔膿胸の治療された方々の診療録を対象とし、治療の有効性を評価するための情報収集を行います。

研究の意義・目的: 肺がん術後の気管支瘻孔や膿胸は時に見られる合併症です。胸部外科により開胸ドレナージのみで治療されることが多いが、難治性の場合には遊離皮弁による再建を必要とすることがあります。一方、難治性の気管支瘻孔膿胸の治療においては胸郭形成、筋弁移植、大網移植などの方法が報告されていますが、標準治療は確立されていません。当院において気管支瘻孔・膿胸の症例に対して皮弁移植による再建を行った症例について検討を加え、気管支断端瘻孔に対する遊離組織移植および筋膜移植による再建の有効性を明らかにすることを目的として研究を行います。将来的には、この研究の結果がより効率的な治療法の開発につながると考えております。

方法: 本研究は、1996年1月から2014年12月までに当センター中央病院および東病院において気管支断端瘻孔に対して遊離組織移植および筋膜移植による再建を行った方々の診療録から、性別、年齢、疾患、既往歴、手術方法、術後合併症などについて情報を収集します。収集した情報を通じて、本治療の有効性について検証します。

個人情報保護に関する配慮: 閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方（氏名等の個人情報は利用せずに研究登録番号のみを使用する方法）で情報を収集します。個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先までご連絡ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 形成外科 櫻庭 実

TEL 04-7133-111

研究責任者

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 形成外科 櫻庭 実

TEL 04-7133-111